



はまなかちょう  
浜中町農業協同組合ほか（浜中町/北海道）

### 地域特性

北海道浜中町は、高品質な牛乳生産で知られる酪農地帯ですが、生産の拡大に応じて、急激に森林を伐採し、湿地帯も含めて隅々まで利用することで、酪農の規模拡大を図ってきました。酪農経営が安定してきた一方で、かつての自然が失われ、当たり前になっていた野生動物などが見られなくなっていました。

また近隣には、ラムサール条約登録湿地である霧多布湿原きりたつぷがあり、自然環境の重要性は知られているほか、老朽化建物の解体等を行っており、景観に配慮している土地柄です。

### きっかけ

酪農の規模拡大を図ることにより、かつての自然が失われ、当たり前になっていた動物などが見られなくなってきたことに酪農家自身が疑問を感じたことがきっかけです。

### 何を目指したか

多様な生きものが共存できる環境を維持・復元・創出することで継続的に高い安全性を持った高品質な牛乳の生産基地とするとともに、子供たち、大人たち、家族が自然に親しみ、自然の恵みを継続的に謳歌できる環境づくりや、酪農で培ってきた文化や知恵を伝え、それを継承・発展できる環境づくりを目指しています。

また、品質の高い農産物の生産や豊かな生活が出来る、安全で安定した農村環境や、自然と調和した自分たちに潤いのある酪農経営環境を整備していくことで、自慢できる酪農地帯の景観を作りあげることを目指しています。

### 何をやったか<地目変更や自然に返す>

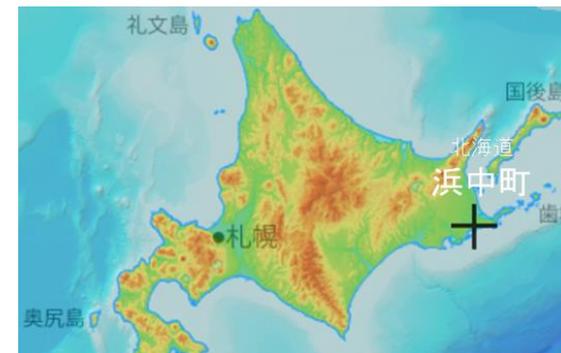
牧草栽培に適さない原野・傾斜地・河畔の湿地に植樹を行い、分断されている野生生物の生息環境を森で繋げる「浜中緑の回廊事業」を実施しています。

### 主な課題

#### <仕組み>

酪農家が植林し、植林後における動植物の生息・生育状況を把握するために、自然環境に関する専門的な知見が必要でした。

→解決策は後述



## ●期待される効果

国土管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牧草栽培に適さない土地を自発的に登録し、共同で管理</li> </ul>
自然共生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植林などによる自然的土地利用への転換</li> <li>・景観の保全や水質浄化</li> </ul>
防災・減災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植林による国土保全機能の向上</li> </ul>
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境に配慮する生産地としてのブランディングに寄与</li> </ul>

#### 関連予算

中山間地域等直接支払制度（農林水産省）

#### 問い合わせ先

浜中町農業協同組合（0153-65-2141）

# ●取組のステップ

平成13年?

緑の回廊開始

かつての自然が失われ、当たり前になっていた動物などが見られなくなっていたため、平成13年より町内の酪農家、地元住民の有志が「浜中緑の回廊」として活動を開始し、平成19年に地元関係機関を含めた「はまなか緑の回廊推進委員会」を設立しました。

この中で、それぞれの生息環境を森で結び、多様な生き物が生息・生育できる環境の回復・保全に取り組んでいくこととしました。

植林にあたっては、浜中町森林組合が浜中町の環境に適した樹種（カラムツ、サクラ、シラカバを基本）を選定し、NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストが苗木の植え方等について専門的知見から助言しています。

また、植林後、苗木が雑草に負けないよう、草刈りについて、土地所有者等が一部で実施しています。

平成28年?

植林の現状

牧草栽培に適さない原野・傾斜地・河畔の湿地について緑の回廊として登録しており、浜中町の農地の15%が緑の回廊として登録され、植樹を進めています。土地所有者（酪農家）の同意は得られやすく、総農家173戸のうち105戸が2,165ha（浜中町内の全農地の15%相当）の牧草地を登録（平成29年2月現在）しています。現在、登録面積は近年増減せず、一定規模のまま推移しており、酪農を維持しつつ動植物の生息・生育地を回廊上につなげるために適切な規模となっています。

また、NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストの生物調査では、「浜中緑の回廊」部分などで絶滅危惧種のチョウ類などが確認されています。

緑の回廊以外でも植林などを行っており、JA浜中町から農家に毎年約1,000本の苗木を配布し、農家が植えています。なお、根付かない場合は、苗木を再度配布し、農家が植えています。

浜中町の酪農家も世代交代を迎えており、自然環境を大切にすることを伝えるため、浜中町農業協同組合では、「浜中緑の回廊」の推進に向けて普及・啓発活動などに努めます。

また、町外から豊かな自然環境を求めてきた新規酪農家にも「浜中緑の回廊」への参加者がおり、新しい世代とともに、同事業を進めていきます。

今後の展望

# ●得られた知見（課題と対応詳細）

<仕組み>

## □専門家を含めた取組体制の確立

この取組はもともと農家の自主的な発案で実施されており、浜中町農業協同組合、はまなか緑の回廊推進委員会を中心に取組を進めています。また、植林後の自然環境に関する専門的な知見が必要であったため、専門的な点については、開始時、浜中町森林組合から浜中町の環境に適した樹種についてサポートを受けました。また、開始時以降、現在も、NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストから植林等の自然環境面についてサポートを受けています。また、NPO法人は動植物の調査も行っており、その調査結果は共有されています。



緑の回廊、植林の様子（浜中町農業協同組合HPより）

## ●仕組みや体制

